鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ

第８回ワークショップ会議録

日　時：平成 24 年 6 月 30 日（土）　10：00～12：00

場　所：鎌倉市役所　第 3 分庁舎講堂

参加者：公募市民：13 名　関係団体：8 名　計：21 名　　傍聴者:15 名

ファシリテータ：齋藤　潮氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科教授）

ファシリテータ補佐：橋本政子氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科齋藤研究室）

事務局：鎌倉市市民活動部産業振興課

加藤課長、近田課長補佐、根本事務職員

(財)漁港漁場漁村技術研究所

浪川職員、田島職員

東京工業大学大学院社会理工学研究科 齋藤潮研究室院生 5 名

プログラム

第 1 部

① 平成 23 年度ワークショップ報告書について

第 2 部

② 本年度ワークショップの検討テーマと開催内容

③ 現地踏査内容と注意事項について

終わりに

④ 次回（現地踏査と第 9 回ＷＳ）のご案内

配布資料

第 8 回ワークショップ　次　第

平成 23 年度ワークショップ報告書

資料－１：平成 24 年度ワークショップの開催予定と内容について

資料－２：現地踏査用資料

資料－３：現地踏査内容と注意事項について

第８回ワークショップ議事録

（開会挨拶・資料説明他）

事務局：市民活動部産業振興課長の加藤です。このワークショップ（以下「ＷＳ」という。）は平成 24 年度の第 1 回目となりますが、平成 23 年度からの通算では 8 回目となります。平成 23 年度は当初 5 回の予定であったＷＳが最終的には 7 回開催し、グループワーク（以下「ＧＷ」という。）での参加者同士の話し合いを通じて鎌倉地域の漁業が抱える問題や課題について共通認識が得られたことが大きな成果ではないかと考えています。本日、平成 23 年度の成果を報告書としてまとめて机の上に置いてあります。参加者の皆様からは、市や漁業協同組合（以下「漁協」という。）に議論の前提となる水産振興ビジョンの不足を問題提起されましたが、市としても早急に検討していかなければならない課題ととらえています。また、鎌倉地域の漁業が抱える課題に対しても何らかの対策が必要であり、段階的に実行可能な対策を早急に講じていくことが提案されています。先日の台風 4 号で船小屋や漁船には被害はありませんでしたが、明日オープンの海水浴場では砂浜の砂が沖へもっていかれるという被害が生じました。最終的に平成 23 年度のＷＳの成果として 6 項目が取りまとめられ、これが平成 23 年度の成果だと思います。7 回もの貴重な時間をＷＳのために割いていただいた参加者の方や傍聴者の方に感謝しています。平成 24 年度の検討内容については後程話しますが、平成 23 年度の成果を踏まえ、より具体化した提案やご意見をいただければと考えています。平成 24 年度についても皆様のご協力を得ながら、より建設的なＷＳを事務局としても行っていきたいと思うので、よろしくお願いします。簡単ですが平成 24 年度第一回の開催にあたっての挨拶とさせていただきます。

<u>第１部</u>

①　平成 23 年度ワークショップ報告書について

「平成 23 年度ワークショップ報告書」について、鎌倉市産業振興課加藤課長から「資料　平成 23 年度ワークショップ報告書及び資料編」により説明を行いました。

参加者：報告書案ではなく報告書となっているが、意見があった場合にどのように反映させるのですか。

事務局：ＷＳの主催は鎌倉市であったため、皆さんの平成 23 年度の意見をお聞きして鎌倉市が責任をもってとりまとめたものです。前回までに確認していただいたものから、表現等の変更や論調の統一などを行ったものです。様々なご意見をいただいた中で、市がこのように答えた、というものを

まとめています。読んでいただき、明らかな事実誤認や意見があったのに掲載されていないなどがあったら対応します。市が責任を持って発行するものと考えており、市のＨＰにもアップしてあるものです。

参加者：今までの会議に参加した自分の印象から、自分としてすっきりしないのは、自分たちがここでやっているものが、どちらの方向に何のためにやっているのか。毎回、突然何か提案され、意見を求められます。意見は整理してもらうものの、資料はＷＳ開催間際に渡され、何も考える暇もなく、また次の意見を求められます。訳が分からず、誘導されながら、いつの間にか 7 回までやってきたが、資料に対してどんな説明をされても、意図的にＷＳ開催間際に資料を出して口封じし、次の目的に沿って誘導していこうとしています。我々が出した意見を事務局が持ち帰ってどういう議論をしているのか。こんな意見が出たけどこれは抑えていきましょうとか、これは拡大して意識的に持ち上げましょうという取捨選択が市の目的に沿って、咀嚼され、整理され、書類の形で固まってきます。こうだったというのも意見の出しようのない間際に提出してきて、次に進んでいるような感じを受けます。この辺りは合理的にすっきりできるようにしてもらわないと、参加者もやっている気がしません。

また、市民感覚でやっているものが意見反映されるようにまとめる時に参加者も入ってやったほうが良いです。自由に意見を言っても闇のところで整理・整頓されるというのは、ＷＳをやっている意味がないような気もします。その辺の運営についてももう少し透明度を高めるように努力していただかないといけないと思います。

事務局：恣意的にどうするということはないですが、そのように皆さんに思われているのであれば、反省しなくてはならず、平成 24 年度にはそのようなことに事務局も気を付け運営を行っていきたいと思います。

Ｆ　Ｔ：報告書は持ち帰ってご覧いただき、気が付いたことがあればこの後でも意見を受け付けるということでしょうか。

事務局：この報告書には皆様の意見が入っており、結論づけているものではありませんが、これは自分の言ったことと違うなど事実誤認があれば、訂正をしなくてはならないので、次回まででも結構なので事務局に提出していただくなり、帰り際にその場で言っていただく、または書き出していただければと思います。

第２部

②　本年度ワークショップの検討テーマと開催内容

本年度のＷＳの検討テーマと開催内容についてファシリテータ（以下「ＦＴ」という。）から説明を行いました。

その後、意見交換が行われました。

Ｆ　Ｔ：事務局と今後どうするかについて話し合ってきましたが、最大の難問は、できれば今日に今年度どうするかについて決めることです。自分としては、今日ではなく、事前に皆さんに、自分から提案して、こう進めてはどうかということをやった方が良いのではないかと市に申し上げたが、市としては、皆さんの議論を踏まえて進めるべきだということだったので、今日その議論の場を用意したということです。

自分の理解では、昨年度から今年度にかけて申し送り事項がいくつかあり、今年度行われるＷＳについては、昨年度と同じことの繰り返しになってほしくないです。これについては、先日行った打合せで、加藤課長もそう思っており、もう少しステップを前に進めるような話をしなければ意味がないのではないか、ということでした。皆さんからの意見にも同じことがありましたので「やり方を工夫しなくてはならない」という課題を自分たちは仰せつかいました。

もう一つは、あるべき論についてはやったので、不十分かもしれないが区切りをつけ、新しい年度は現場に基づいた具体的な検討を進めるべきだという意見もありました。自分もそうであると思いましたので、何とかその方向で話し合いを進められないものかと考えていました。

そこで振り返ると、一つは漁業者からみると「高潮の議論は避けられない、漁港を何とか整備してもらいたい」という意見であり、もう一つは「漁港建設によらない方法を考えてみたい」という意見がありました。またそれとは別に、鎌倉観光と市民生活をどう考えて行くか、そういう問題も一緒に考えていきたいという意見がありました。

これを踏まえて、こんな新しいやり方ができないだろうかと考え、自分からの提案があります。一つは、今後漁業活動の安全性を高めて、あるいは、維持していくために必要なことを検討しませんか、ということです。浜を使った漁業を続けるとすれば浜をどう整備をすれば良いのでしょうか。このままでは台風のたびに大変なことを続けなければなりません。船揚場を今までのままで使うとすればどうするか、あるいは浜小屋をどうするか、位置、規模、形態、新しく整備した時に他の利用を創造できるか、そういうことをきちんと検討しませんか、というものです。

もう一つは、もし漁港を建設するとすれば、どんな漁港であるべきなのかを検討しませんか、というものです。漁対協の案を検討して、位置、規模、形態、今後の用途、環境、景観、などについて、本当にこれで大丈夫かなどを検討しましょう。

また、その他として、今二つの案を検討するとして、鎌倉市民の生活の向上を念頭に置いてどうしたら良いのかということを、一緒に検討しませんか。自分がこの話を市にしたら、二つ言われたことがあります。

一つは、この浜を使った漁業を続けるとすれば、という仮定ですが、漁港建設があるとしてもいつそれが進むか今のところ見えない状況なので、どうしても今のうちから考えておく必要があるということです。

もう一つは、ＷＳで検討する自由度はありますが、あまりにも荒唐無稽な案を鎌倉市が受け取ったとしても、お蔵入りになってしまいます。そうすると、せっかく検討してもらった意味がなくなるので、ある程度現実路線を踏まえて検討していただく、それであれば鎌倉市も動き易いと思います。

その辺を念頭に置いて、前年度のＷＳの作業をこのままで進めたらどうかということです。ただ、これを一つ一つ解決すると時間がかかってしまうので、例えば、ＷＳのメンバーである皆さんが検討テーマをそれぞれご自身で選択していただき、私はこっちをやります、私はこっちをやります、というように検討項目を選択して、グループに分かれて喧々諤々やっていくということもあり得ます。そして現地見学会を実施して、その問題についてチェックしたり、あるいは、浜の状況を見ながら考えていきます。それから必要に応じて図面や模型を準備して動かします。学生が何人も来ているが、もしこういう模型があれば検討できるなどがあれば、浜や漁対協の模型を作って、それを基にして、これはだめじゃないか、良いじゃないか、というのを検討します。それから、必要に応じて専門家のレクチャーを受けます。彼［漁港漁場漁村技術研究所の職員を指して］は私の友人ですが、漁港に対して非常に詳しいです。そして浜の利用については必要があれば、砂浜の専門家等をお招きしてレクチャーを受けることもあり得るでしょう。その他こういうことをやったら良いんじゃないかというのは、皆さんと相談しながら決めます。例えばですが、そんな風にして進めたらどうかというのが、私の提案です。

私の提案は申し上げたが、今日は、平成 24 年度のＷＳをどう進めるかについて皆さんと話し合っていきたいです。例えば、具体的な話に入った方が良いという同意が得られれば、事務局から色々と進め方を提案する準

備があります。もし根本的なやり方を議論するということであれば、それは一旦置いておいて、残り時間でそれを議論したいです。大体 40 分ほど意見交換を行った後、具体的にどうするかについて話し合います。いかがでしょうか。

参加者：本日のＦＴの提案に対し、ほとんど自分は賛成です。ＷＳというのは、本来これをやるものだと思って昨年参加したのですが、中々そこまでたどり着けなかったため、延長して今年度もやっていただきたいと思った方が多いと思います。このような提案がＦＴから出たことが良かったのか、メンバーから出すべきだったのかはありますが、この意見に対し、自分は賛成です。漁港に賛成するにしろ反対するにしろ、まずそれに対する検討を皆で行っていくということが非常に大事だと思うので、自分の意見を深める意味でも色々な案を皆で目にし、動かしていくべきではないかと思います。

参加者：趣旨としては理解できるが、やり方としては根本的に考えた方が良いと思います。具体的には報告書 P14 の 3-5-3 に「費用対効果の実施」、P16 の 3-6-2 に「代替案に関する意見」というのがありますが、漁港に関して費用対効果をしっかり分析し、それが見合わないものであるならば、3-6-2 でいくつか出ている代替案を分析・検討する。このようなことを行政が主体となって行い、その分析・検討結果をここに示していただき、これを自分たちだけでなく、市民を含む多くのメンバーに聞いていただき、費用対効果や代替案に対してこれがリーズナブルなものではないか、という総意を得ることを早急に進めていただくのがやり方ではないかと思います。2、3 か月の間に行政がきちんとこの二点をまとめ、その後、2 回ほど広く周知し、皆から意見をいただく場を設けるというのが良いやり方ではないかと思います。ただ、行政が主体となってまとめる際に、是非、漁業関係者で参加したい人、ＷＳの方で興味のある人、専門家として興味があったり、何か提供できるという人が検討に参加するという方法が今年一年で成果を出すには最も良いやり方ではないかと思います。

参加者：今、ご提案していただいた内容について、方法論としてはよくわかるし、進めやすいと思うが、内容についてみると要するに漁業を続ける、漁港を整備するという基本的には現在の漁業を継続し、それを安全にするために漁港を造っていくべきで、それにはどんなことが考えられるのかというような分析をこれからやっていきましょうととれるが、私が何度か言っていることは、果たして鎌倉の漁業を継続するために市民の税金をつぎ込んで良いのかということを含めて、水産業に対する鎌倉市の考え

方あるいは施策をはっきりさせるべきだというような意見が出たと思います。そういうものを何もはっきりさせないうちにまたこういう議論ばかりをすると、また根本に戻って一般市民が税金の使い道として、どのように今後のことも含めて考えていくのかというものが、別な形で出てきて、また話が元に戻ってしまうという恐れがあるのではと危惧します。

参加者：この一年間色々な立場の色々な目標・目的等の意見は今日この机の上に載っている報告書等で十二分にあると思います。今、この部屋でこの議論をしているときに、皆さんの頭の中で、鎌倉市という地方自治体が置かれている状況、特に財政状況に全然目線がいかないで、この議論を進めていると、空論で終わると自分は思います。振り返ってみれば、昭和何年から鎌倉の漁港というテーマで経費を使いながら何十年と議論をしてきて今日に至るのです。過去の議論の中で欠落しているところを埋めようとＷＳという形態をとっていることは良いが、先日終わったばかりの鎌倉市議会で表に出てきた大きな流れが一つあることをお気づきの方もいると思います。鎌倉は 1,000 億円の借財があり、辻褄があっているようには見えているが返せません。ましてや第 1 次、2 次、3 次とやってきた鎌倉市総合計画の実施計画があと三年間であり、計画で既にあげて年月経てきている事案を実行するにも 100 億円ほど足りません。例えば、漁港の問題は実施計画に入っているから、お金があるというのは基本的には間違いです。今度の議会でＰＦＩやＰＰＰというものを正面切って議案として発言が始まっています。例えば、大船の東口の再開発で区分すると二つぐらいにわかれるが、一つの方は総事業費 240 億円ぐらいかかると行政が回答しました。それに対してある議員が費用はどのようにみているのかと言ったら行政は、50 億円は鎌倉市がみようと思っています、中身は一般会計で 15 億円、あとの 35 億円は起債を起こす、と答えました。それに対して議員は言葉を継いで、鎌倉市がそういうことを今でもできると思っていますか、というと同時に、他のお金はどうするのかと問うたら、答えられません。深沢地区の国鉄跡地を含むところでも、同じような質問に同じような回答です。それに対して、鎌倉市がすでに進行している作業に、民のお金をどのように導入したら良いかという命題のもとに、提案型の企画提案書をシンクタンクに発注しました。六社ぐらい応札していますが、これは今度の議会でも別の議員が行政とやり取りしている中で、これから鎌倉市は企画提案型の民意の募集を相当やらなければならないと、そして、二十何年間やってきた鎌倉市総合計画の見直しということも整理作業を始めているということですが、このシ

ンクタンクの答案のエッセンスは民がどうやって積極的に公のために公的なことをやっていくかということです。民の知恵とお金と力と行動力をどうやっていくかというところに主眼をおいて答案は出されるはずでしたが、鎌倉市側が出したスペックが今までやってきた総合計画に軸足をおいて見直しととれるような答申の求め方だったので、二十年前以上とは時代が大きく完全に変わっており、それによって答案を出したシンクタンクに優劣がつきました。そういう状況の中で、坂ノ下の問題を考えるときに、いずれは企画提案型で行政はマーケットにふるという場面が必ず来ると思っています。その中には事業予算の取り込み方も含めてＰＰＰやＰＦＩの方式で公募すると思います。自分がこの場で申し上げたいのは、企画提案型になるということを事務局でよく見定めていただけたら、提案募集のスペックをここで議論できると思います。この資料に盛り込まれていることを分解すれば、上位、中位、下位というように優先順位があると思います。条件や注文はお互いに連携しているので、学問的にも今日的な世相観察的にも難しいと思いますが、どういうスペックで企画提案を受け付けたら良いかということが、これを実現化する実際的な道だと感じています。このＷＳにおいて今後一年間で何をしたら良いかというヒントとなるかと思って話しました。

Ｆ　Ｔ：今いくつか意見が出されました。自分が提案した方向でやるべきだという意見、費用対効果分析等を含めた行政側の検討結果を示してそれを基にして議論をすべきという意見、代替案の検討を続けるべきだという意見、そもそも漁業をどうしていくのかという未解決の根本的な問題を明らかにしていくべきだという意見、行政も提案募集型の導入をする時期にきておりそのスペックを出すという位置づけでの作業の在り方があるという意見でした。これらの四つの意見について少しディスカッションしたいです。例えば、自分はこう考えるという意見があれば伺いたいです。

参加者：話を聞いていて、一番目の方の意見も理解しているが、二番目から四番目の方の意見は賛成できると思っています。確かに前回までのＷＳを振り返り、様々な議論があった上で今日があるというのも事実ですが、漁業をどうすべきか、という重要な疑問があります。本来、課題やニーズがどこにあるかというものは、当事者の方が考えるものです。市民の立場でそれがおかしいのではないのかと思うのは、それが具体的な案をとった時に費用や効果、あるいは、漁業以外のその他とのバランスの中でどうなのかということがあるのがプロセスだと自分は思います。先生の

意見の中で一個一個は妥当だと思いますが、安全性をどう考えるか、浜を使う話はどう考えるか、船揚場の利用とか、漁港建設の具体性とか、確かにここだけで言っても最終的には空論になるのではないでしょうか。我々は空論に延々と時間をかけたのか、ということになりかねません。3月までのＷＳで漁港は建設できるという案に対してそれは無理という議論になったので、そのバランスはあると思います。二番目の方が言ったようにある程度当事者が考えるニーズについて具体案というものがあり、その中で財政ややり方などを含めて逆にとれるものがあるのか。その方が結果として到達点が早いと自分は考えます。いきなりきれい事というと語弊がありますが、大きいところに話が行きたいが、着地点が見えるかという点で堂々巡りにならないか懸念されます。

参加者：補足すると、そこの書き方について自分が言ったのは、行政あるいは当事者が費用対効果の分析や代替案の検討をしっかりとすべきで、そこの資料が抜けていること自体、自分としては残念です。次回は現地踏査と書いてありますが、自分が事務局でやる立場なら、現地を見るより実際出ているいくつかの案、例えば和賀江嶋の案や小坪の案等をきちんと検討するとこれは無理とか、これはできるかも、というのがあると思います。現地を皆で見ようという前にしっかり分析をし、この辺のポイントを現地で見ていただくと良いかもしれない、というように進めないとただ皆で材木座から坂ノ下まで歩いて、何なのかという話になると思います。　一年間かけてしっかり費用対効果の分析をしようとか、そうでないと理解を得られません。こういう代替案があるのではないのかというのをこのメンバーで出したので、それをしっかり受け止めて一番課題を感じている方や行政の方がそれを精査して、この案だったらいけそう、この案だったら無理、というようなことを示すのが今年の第 2 回ＷＳではないかと感じています。

Ｆ　Ｔ：行政側が主体的に一つの案について様々な分析を行い、その結果を皆に提示し、それを議論するというやり方ができないのか、という意見ですが、それに対していかがでしょうか。

事務局：費用対効果の問題などは自分たちも議論しています。漁業者の側からこういったものがある、それに対してどうなんだ、とした方が早いのではないかという意見がありました。費用対効果について言えば、必要な規模やどのような機能を持たせるかなど、建設費用を出すための具体的なものがないと、それにより発現する効果が何かを出せません。現時点でやるとすれば、鎌倉漁港対策協議会（以下「漁対協」という。）で出た案

も時間とお金をかければできます。この案でいくとなれば、それも無駄ではないと思います。今回、実施計画の見直しがありますが、やはり防災の関係を第一優先にして考えていくと、そのような予算編成が今後組まれていくのかと思います。鎌倉漁港だけではなく、鎌倉市の中で経常的に使われる福祉の予算やそれ以外の経常的に使わない経費に掛かる事業というのは何百もあります。鎌倉漁港についての事業はその中の一つです。その中の優先順位について、ＷＳで話し合ったとしても結論は出ないと思います。それを決めていくのは議会であり、今後予算化する際に予算がきちんと認められるかという点で判断するしかありません。

また、費用対効果を出すためのスペックについてですが、先ほどＦＴから例えば、ここにそういったものを造った場合にどのくらいの機能や規模、またはどこの位置にしたら良いかを一つ一つ潰してこういったものが必要と言った場合、これだったらこのくらい費用がかかって、その場合の効果はこのくらいです、と。全国で漁港は三千程度あり、東北地方の漁港は東日本大震災で壊滅的な甚大な被害を受けています。復興の事業費は計上されていますが、それ以外の多くの漁港に対する予算が削られているかというと、半分になってしまうということはありません。やはり古い昭和 30 年代、40 年代に造られた漁港について老朽化が進んでおり、それを新しく造り替えるのではなく、長持ちさせるための予算などは計上されており、新規の漁港も数は少ないが建てられています。そういった予算を鎌倉で漁業があるのであれば、もちろん市民の税金も使わせていただきますが、地元鎌倉の漁業振興のために漁港を造ろうということになれば、市としても国費を獲得していきたいです。そうでなければ、そのお金は他の地域で使われてしまいます。そうであれば、我々鎌倉市民として、あるいは市の職員として鎌倉の漁業を考えた上では、鎌倉で国費などを有効に使いたいという様に自分は思っています。そういった意味で、確かに税金の使い道や優先順位はありますが、それにより漁港が良い、悪いなどの話になってしまうと、どなたかも言っていたように堂々巡りになってしまうと思うので、先ほどＦＴから出していただいたように具体的な作業を進めた方が、成果が出るのかと思っています。

また、企画提案型の事業にシフトという点では鎌倉にも実績はあり、今後そのようになっていくかと思いますが、全国的には漁港に関してＰＦＩの事業はあったかと思いますが、それは単なる漁港ではなく、マリーナの機能が付属するようなものです。企業がお金を出すため、何らかの収益または集客力が望める施設です。今、鎌倉で考えている漁港はそういう規模を想定していないので、この企画提案型に関して頭の中にイメージがありませんが、今

のところ漁対協の案で費用対効果がどの程度出るか、また実現可能性がどの程度あるかについてはお答えできない状況です。

参加者：費用対効果について、造るものが決まらないとできないというのは、詳細に正確なという意味でかもしれないが、理解できない部分があります。前回も、茅ケ崎で数十億なり運営費が膨らむとそれ以上のお金がかかるという意見があったが、全国で三千以上の漁港があるなら、例えば鎌倉で今造ろうと想定しているものに対して建設費・運営費・何かあった時の補修費などは、ざっくりとであればきちんと示せます。議会で議論するわけではないので、ＷＳで市民に広く理解を求めるという意味では、それぐらいのイメージで良いので一か月もあれば出せるのではないでしょうか。

もう一つは、漁港を造るという出発点は、漁業者の方に色々なニーズがあり、台風などで被害を受けられたと思うが、このようなニーズに対する対策として本当に漁港が良いのかという点も代替案の検討のところで話が出たと思います。代替案一つ一つについて、対策になる、ならないというのが検討できるはずです。実際、ＷＳの中でもヒントは出ています。腰越に避難するのは難しいとか、小坪の船も避難しているなどです。小坪を改修して鎌倉の船も小坪に避難することができるのではないかなど、ひとつひとつ考えていくと色々なヒントがあるはずだと思います。そういうものをしっかりやった上でもう少し我々なり市民を集めて議論する方が、この一年で出る成果としては、早いのではないかと思う。

二番目の他の施策との優先順位が付けられないというのは、確かにＷＳというのは難しいのではないかと自分では思うし、そのために議会があると思うが、これも、広く広報などを利用して、大船の再整備などのいくつかの問題があると、これくらいのことをやるとやはりこういう予算が必要になってくると広く知らしめて、市民としてはどの優先順位が大切だと思うかという問いかけを、単にＨＰや広報だけではなく、今は様々なソーシャルメディアを使うこともできるので、そういうもので広く市民の意見を集めることもできるのではないかと思います。市としてはそういう活動に予算なり労力を振り向けた方が建設的なのではないかと思います。

参加者：ざっくりの数値を出すのなら、振れ幅が何％とかも出してもらわないと、それが正しいと思って後でふたを開けてみれば、実は倍ぐらいでしたとか、半分くらいでしたとか言ったら、そもそも収拾がつかなくなってしまいます。

また根本的な質問ですが、例えば私はＷＳに去年参加したときには漁港を

造るという前提で、こういう漁港を造ろうというのを考えるところかと思って自分は来ました。そしたらいきなり予算の使い方になってしまった。予算の使い方、税金の使い方、市の事業の優先順位といったことはこのＷＳではやりますとか、やらないとか一度決めた方が良いのではないでしょうか。

参加者：話をさかのぼって恐縮ですが、先ほどの事務局の話が理解できなくて、整理させて欲しいです。要は最初のところでは、具体案がないと行政として費用対効果は考えられません、というのが一番目の話であり、二番目は代替案というものは行政サイドからは考えませんとおっしゃっていて、三番目では、予算等実現性の問題は考えていない、あるいはまったく別であるとのことです。これが三つのおっしゃっていたことだと思いますが、これはまさに今の政治の問題そのものです。皆があった方が良いんじゃないかなぐらいで積み上げでやることを出した後、そんな金ないけどどうするのと言い、金なければ良いじゃん、というのがまさに今の世の中の問題ではないのですか。それが未だにＷＳの前提にあるので、案は考えません、皆さんでどうぞ、と言われたら、何のために自分たちはやっているのか。元々自分たちは本来当事者ではない。この前のＷＳもそういった話がきて「おい、ちょっと待てよ」と本当に予算や環境など色々含めて、本当に実現性あるのか。鎌倉市はこの話を進めてしまって大丈夫か、というそこの問題意識があるから「ちょっと待ってよ。ちゃんと話し合った方が良いんじゃないですか。」と言い始めたわけですよ。あえて言えば、案がないと考えられないとおっしゃるけれども、20 年かけて唯一できた案が漁港建設であったために、前回ＷＳで漁港建設はどうしますかという話をしたときに、少なくともこのＷＳの中では、それって手段と目的が見合ってなくて、とてもじゃないけど今のご時世に実現性が乏しいよね、という話になりました。それでは漁業について何にもしなくて良いのか、というとそんなことは思いません。だから、そもそも何が必要なニーズであって、それに対する目的が何で、目的に対してもっと近いやり方がないのか、を考えるのであれば、継続するのはしょうがないし、よろしいのではないですか。やるべきじゃないでしょうか。皆で考えた方が良いんじゃないですか。そうしないと、現に困っている人たちはいつまでも放って置かれているだけです。

参加者：一応このＷＳは漁業と漁港を考える、そういう会議だと思っています。この中で色々な意見が出ますが、そのために議論してもらい、先ほどＦＴが言われたように、一回現地視察で見てもらって、それから議論というようにした方が良いのではないかと思います。政治だ、なんだとい

う話ではなく、まずこの漁業と漁港を考えるＷＳという題によって皆さん集まったと思うので、先ほど先生が言われた浜などを一回見てもらって、またこういう会議をした方が良いと思います。

参加者：23 年度のＷＳの成果で、漁港の建設は現時点では「経済的にも無理がある、今後も継続して議論するべきである」と無理があるのに議論していく、お金がないのに議論していく。成果をみると、主な成果と書いてあるが「べきである、べきである。」という断定的なことを求められると、今の前提で漁港についてそこまで議論はできないのではないでしょうか。整備するかこれ以上話を進めていくためには、漁業がこれだけの規模で、これだけの予算があって、これだけの必要性があるという、前提がないと、今までと同じように雑多な意見を出すことしかできません。ここにあるような「べきである、漁港をどうするべきである。」というような意見は、私たちはまだ出せないのではないかと思います。それは経済性の問題も規模の問題も前提がわかりません。

もう一つ、漁港を建てるとなると潮流がどう変わるかなど科学が必要です。私たちはそんな知識もそれを検討する余力もないので、この成果のところで、現時点では無理であると書かれているのに、議論するべきであると、どういう点でどう議論できるのかわかりません。浜を見て色々考えるのは良いが、漁港をどうしたいかというのをきちんと出せるかというのは無理ではないかと思います。浜を見て色々と考えるのは良いが、(1)の方の整備については色々な意見が出せると思います。ただし、ここの主な意見で「べきである、べきである」というのはＷＳでは無理だと思います。大体私たちはきちんとした市の代表ではありません。たまたま関心があった、たまたま選ばれた人間なので「べきである」までどうすべきであるかとかは出せないと思います。雑多な意見が出せるくらいです。

参加者：ＦＴの(1)、(2)のどちらにするかをシビアに議論しなければ、この先何も進まないというのが自分の意見です。漁対協の答申にあったような港をあそこに造るのか。先ほどの方が言われた資料の時点は古いが、第 3 次鎌倉市総合計画、第 2 期基本計画の後期実施計画で、累計 106 億 8,000 万円という財源不足があります。これは 12 月時点なので既に数字は変わっていると思いますが、このような財源不足があり、机上の空論の時期は終わったと思います。自分自身、このＷＳはシビアに現状を見ていく必要があります。自分はどっちに触れるのかが出発点になるのではないか。何もしないというのは、この間の台風で大きな被害があったことが、フィッシャーマンズ通信などに載っているので、安全という喫緊の課題

があります。また、漁港を造ったら維持管理費などがかかると思うので、そういうのも含めてシビアに、市として市のお金というのを考えた上で、現実的なのか、どうなのか。大震災という社会情勢を経験した後に、鎌倉には 14m の津波がくると予想されている中で、漁港や漁業を考えるのは十分大事なことだと思うが、やはり予算的に不可能なものを、物語を考えるようにＷＳをやっていては仕方がないので、(1)、(2)どっちにするか、をまず出発点として方向性を示すべきだと思います。

参加者：ＦＴと市役所の方は、実現性や予算があるかということをここで考えるべきだと思って、これを主催したり、ファシリテートされているのでしょうか。誰かがリーダーシップをとって、そういうことも考えてから、ここで話し合いますよとするのか、それとも実現性はどうでも良いから、市民としてこういう漁港があった方が良いよね、という理想論を作るのかを誰か決めた方が良いのではないでしょうか。方向性がないから「こういう意見があって、こういう意見があって」となり、皆さんが黙って、ＷＳが終わって、また次ですね、と紙の資料をもらって、また同じ話になってしまっています。

事務局：先ほど少し申し上げたつもりですが、このＷＳで、噂で鎌倉漁港を造るのに 100 億円かかるような話を聞いたが、そんなすごいものを造るのはまず不可能だと思っています。このＷＳでは予算の上限を、市の今の財政規模や国や県からの補助がこのくらいということで、ある程度示すこともできると思います。また、市の優先順位や予算までを考えてやっていくのかについては、このＷＳでは議論することはできないと思っており、またお願いするべきではないと思っています。

参加者：それならそう決めて、賛同する方は次からも来てもらい、賛同しない方は議会に行っていただいて「こういうＷＳを市でやっているけど実現性のない話であり、お金を使うのはあれなので議会の方でこういうＷＳをやめてくださいと市役所に言ってください」というようにやれば良いのではないでしょうか。

事務局：議会も色々な事業を精査し、審査をしています。その中で我々としては、予算ありきというわけではなく、こういったものを造りたいとやるので、それに変なたがをはめるということをしたくありません。このＷＳでは予算がないから無理とか、どんな制限をもってやるのか、などは抜きにしてやっていただきたいと思っています。この平成 24 年度のＷＳは(1)、(2)について、予算的規模などは少しおいて議論していただきます。優先順位についても構わず自由な意見を出していただきたいです。

参加者：今まで散々平成 23 年度に自由に意見を出してきて、一応報告書としてここにあがっています。この報告書をとりあえず踏まえると、ここにある代替案を検討しないといけません。このままでは同じ事の繰り返しになってしまいます。例えば「100 億円かかるというのは実現性がないから無理」「和賀江嶋は史跡指定されているから無理」など無理なものは置いておいて、掘り込み式など他に構わず、もう一回きちんとしたものを造るのであれば、どうしたら良いのかなど、いくつか書いてある中でピックアップしないといけません。

また、同時に潮の流れなどの専門的なことがわかる先生たちを招く、結果的にお金をかけて進めていっても無駄になってしまうかもしれませんが、三つぐらいを同じように進めていかないといけません。ここで一個に決めて突き進むと何か問題が生じた時に「やはりあっちの方が良かった」ということになります。それでは今まで堂々巡りしてきたことと同じになってしまいます。せっかくここでまとめとして挙がっているので、この中でお金がかかりすぎるものや和賀江嶋などはやめて、いくつかを同時並行で専門家を入れて進めていかなくてはしょうがないと思います。環境問題などを含めてです。

事務局：その通りだと思います。我々もこの後の決め方として、色々出ている代替案や漁対協に対する検討結果、和賀江嶋や逗子マリーナを使うなど。

参加者：一つ追加して良いですか。逗子マリーナも含めて三つぐらいに絞った中で、現地調査に行かないと「こっちで一回行って、こっちで一回行って、こっちで一回行って」となると、違いがわからないため、皆で見に行ってもしょうがないです。一つにここで話を決めていくのではなく、三つぐらいは同時並行で進めていかないといけません。現地調査も含めてです。

事務局：事前の情報として例えば、逗子マリーナに停泊するのであれば、費用的にどのくらいかかり、それを全部漁業者が負担するとどのくらいになるか、というのは全部調べるようにします。和賀江嶋についても前に一度説明したつもりではありますが、難しい点がたくさんあります。また、小坪漁港や逗子マリーナなどの状況を見るのが一番良いのかもしれません。実際に見ることができるかわかりませんが、行程に含めたいです。

そして、もう一つ提案されている漁対協についてはどういうところがいけないのか、一つ一つ検証しながらやった方が良いというのは事務局としても思っています。代替案については、我々の方で事前に資料として提示するようにします。

参加者：現地踏査は来月行くことになっていますが、「こういうのが決まって、こ

の様なものをこのことについて見に行きましょう」ということでなければ、ただの遠足になってしまいます。また、今「来月行きます」と言われても、今日集まって何をこれからやっていくかもわからない状態で、現地踏査に行く段階ではないような気がします。

F　T：今の事務局の日程は「例えば」ということです。ですから、今日の話を受けて、見学している場合ではないということになれば、今後の進め方についてもう一回検討することになります。ただ、限られた時間の中で「検討します、検討します」ということを繰り返していても、同じことの繰り返しになってしまいますので、そこを何とかしたいです。今おっしゃられた代替案 3.6.2 とありますが、掘り込み式と第 1 次漁対協の候補地 A などによる漁港建設の再検討に関する話も(2)の漁港建設するについてどうするのだ、ということについてです。もう一つの漁港建設以外の漁業支援策、選択肢の検討、浜小屋等既存施設の強化対策の検討というのは、(1)に相当します。それ以外に環境面や観光などの話があったので、それを(1)、(2)にかぶせる形で、大きく二つの検討項目を用意してそれぞれグループに分かれて検討しませんか。検討すると言ってもただ「どうしましょうか」では話が進まないので、私どもが事務局と相談しながら原案をお出しします。例えば浜小屋等について言えば、どのくらいの規模が必要なのか、船揚場というのはどのくらいの規模のものが必要なのか、どうすれば当面は被害を免れることができるか、それを仮に図面や模型に配置します。それでこれはこうできないのか、ああできないのか、というご意見をいただきたいです。そういう準備をする予定でいます。ですから、例えば港を造るという前提とした検討にしても、いきなりどうしましょうかではなく、漁対協の案というのはどういう手順で決まってきて、なぜここが良いと言われているのか、ということから始まり、ここをこうしたらなにが悪いのかについて、港の専門家に話をしていただきながら、港を造るということだとするとここ以外にないのかとか、ここに造るにあたってはこういう造り方はだめなのか、という具体的な検討を皆さんとやりたいと思っていました。

参加者：素朴な疑問ですが、全国には私立のマリーナというのはいっぱいありますよね。私立で港を造ってはいけないという法律はあるのですか。根本的な質問です。マリーナは良いですよね。海岸線を使って散々近隣と折衝し、自治体と折衝し、必要な省庁と折衝して私法人が、私立マリーナが全国にありますよね。港はだめなのでしょうか。既存の漁村にマリーナと併存している事例はありますよね。お答えいただけますか。2 億円ぐ

らいの売り上げの母体が 20 億円ぐらいの投資ができないわけないです。

事務局：まず、港をどう定義するかですが、日本の法律では港湾法と漁港漁場整備法というのがあり、その法で港に類するものを整備していくというのが原則となっています。例えば葉山のようなマリーナというのは、基本的には各自治体が整備しており、委託管理という制度によって民間が利用しているというのがほとんどの場合です。正確に覚えていませんが十年ほど前から、今お話にあった大きな漁港にマリーナが張り付いているフィッシャリーナという形で漁港を、より多目的に使うという目的で遊漁船や一般のプレジャーボートといったものが広く停泊できるスペースをつくろうと全国に配置した経緯があります。また、皆さんの関心がある埋め立て行為、公有の水面を埋め立てる行為は漁対協の案にもあるように必要になってきますが、埋め立て行為は、埋め立てをする人が当該海域の管理者に許可を得る行為なので、公である必要はありません。この辺だと横須賀に日産の大きな土地が点在していますが、あれは全部民間の埋め立てになっています。施設についても同様です。考え方は色々ですが、港を県あるいは市町村でなければ、造れないという話はありません。それらの行為を自治体などと一緒になってやることは、十分可能だということです。今までの考え方で言うと、一企業が単独で港を整備したり埋め立てをしたりということを完全にやっているということはほとんどありません。

参加者：ほとんどですか、絶対ですか。

事務局：私の知る限りではありません。

参加者：須磨、明石であったか、中国地方の沿岸には、既存の何かがあったのではなく、何もないところにマリーナを造っています。大々的に宅地開発と一緒にやっていた業者があったのですが、それは別に既存の何かがあって、水面のところをどうやって申請したか、いきさつはわかりませんが、私の純粋な質問は、私立マリーナがあって、私立漁港はあってはいけないのか、という質問です。費用対効果だとか、時間の短縮だとか、行政の労働軽減だとか、色々メリットがあるわけですよ。

事務局：おそらく日本国内ではそのケースで、民間が一から最後まで整備をしたというのは、漁港については恐らくないと思います。手続き上、今のところ、その方が大変になるのではないかと思います。先ほど申し上げた横須賀の日産の用地なども、横須賀港の港湾計画に用地の造成として載って、初めて民間の埋め立てが認められます。いずれにしても、海に手を付けるということは、国ないしは県など上位の管理者に話をした上で、

そこの計画に載らないとできません。当然、今議論していただいている鎌倉の漁港も、神奈川県の漁港計画にしっかりと載せていただかないと最終的には進まないということです。当然、県の方には前々からそういう計画を進めていくということを話しているところですが、最終的に記載されないと先に進まないというのが現実です。

参加者：それは、海だとそうなのですか、掘り込み式だと国に言わなくて良いとかあるのですか。

事務局：港を造るという行為はどちらでも同じです。港というのは、いわゆる漁港指定というものがあります。漁港指定をするということは、県として新しい漁港の区域を指定するということになるので、掘り込みであろうが、埋め立てであろうが、どちらにしろその行為は必要になります。

参加者：役所もこの頃は柔軟な部分もでてきているので、研究には値すると思いますよ。

Ｆ　Ｔ：おっしゃりたいことは、今後、企画提案型の手法が出てくるだろうから、ＷＳで議論するものが、そのためのスペックをリストアップすることになると良いのではないかということですか。

参加者：それは本当ですよ。プレゼンテーションの時にお役所の方が 8 人ぐらいならんで、三日後ぐらいにジャッジが出てしまうというのは提案する側からするとキョトンとしてしまうのです。

Ｆ　Ｔ：そのスペックを行政側が市民と相談なく作るのではなく、ＷＳやなんかの形で。

参加者：そうすれば、市民が作ったスペックになる。そして提案者の最終審査もここで審査すればすごく公明正大ですよ。

Ｆ　Ｔ：あと 30 分を残すところになりましたがどうでしょうか。今までご意見いただきましたが、基本的には大きな考え方が一つあり、それは「このＷＳでやることと、このＷＳとは別に市に対して宿題としてやってもらいたいことを仕分けなければならないのではないか」ということです。それを一緒にしてしまうと、このＷＳでは負いきれないことまでやることになるし、市はＷＳで市がこれ以外にやらなければならないことの整理が、つかないということになってしまうので、そこをはっきりさせたいと思います。それで自分としては先ほど提案にあったように「代替案がいくつか示されているので、その中で掘り込み式を含んだ漁港施設の再検討をしましょう」という提案を受けて(2)をイメージしており、「建設以外の漁業支援、選択肢、浜小屋等の強化、浜をどうするか」を含めて(1)をイメージしていました。それをただ、利便性等で解決するのではな

く、観光や市民生活の向上のためにどう役立てるか、ということをそこに被せていきませんか、そういうことをここで議論していただきたいと思っていましたが、今の提案を聞いて面白いと思ったのは、今後、鎌倉市が自費で全部やるというのではなく、民間の活力を導入しながらやるという可能性もないわけではない。その時の審査というかスペックをここで整理するということに意味があるのではないか、これを考えるということは今後どうしたいか、民間が入ってきたときに我々は市民としてどういう要望をその民間企業に要求しなければいけないか、ということを整理することになるのではないか、そういう位置づけだと教えられましたが、そういう考え方に立って、この作業を進めていくというのはどうでしょうか。

参加者：良さそうですが、そのスペックというのは具体的に言うと、どういう項目のことを言うのでしょうか。

参加者：それはちょっと簡単には言えませんが、今しゃべっていることは構想ですよね。構想全体に皆で注文を付けたりしてこの一年やってきました。それはもうちょっと先生方に入ってもらいます。よく提案協議のスペックというのは、鎌倉市のこの間のものは提案に応募する側が辟易するような文言がいっぱい散りばめられていました。ですから、そこはこの報告書等の中から上位・下位・中位と議論して、これと、これと、これだけは、提案の中の要素として外されたくないと決めた上で大きな枠を提案してみると、今の鎌倉については色々な提案が相当集まりますよ。

参加者：スペックというものの具体例を挙げていただけると、イメージしやすいと思うのですが。

参加者：それは行政の色々な希望が入ってくることもあります。ただ、私はこのＷＳで議論してここにまとめた報告内容は貴重だと思います。これが全部入ってでき上がれば、それにこしたことはありませんが、それは難しいので整理して、上位・中位・下位と決めて、それを追及して「あの地区に漁港はできます」とか「いや、もうちょっと枠を広げても良いですよ」っていえば「ついでにプールも改造してこういう風な計画の中でまず漁港を造りましょう」と色々な提案が集まると思うんですよね。

Ｆ　Ｔ：例えば、機能だけだったら考えることができますが、利用や環境や景観などを考える時に、皆さんで議論していただければ「こういう注文をつけましょう」ということが議論の中で出てくるかもしれません。これがスペックになるということですよね。

参加者：がんじがらめにスペックがあると、逆に良い提案が出てこないですよ。

その代りに出てきた提案の実現性を追求して、このＷＳで手順と資金とプロセスをどうする気だと質問していけば良いのですよ。その時こっちの案件が阻害されないかとかね。要するに漁港を最終的に手に入れようという大命題に向かってどういう道から行くかということですよ。

参加者：逆に言えば、こういう漁港ならごめんだよ、というのも、そのスペックに照らして考えられますね。

参加者：そうです。除外項目としてですね。そうでないと、鎌倉市のやることは密室になっちゃうんですよ。誰が審査員かわからないままに、いきなりジャッジがきてしまうということです。

Ｆ　Ｔ：例えば、漁港の専門家は皆様から意見のあった掘り込み式の漁港について消極的なのですが「掘り込み式で造ったらどのくらい掘り込まなければいけないか」とか「そのために道路を上げて通さなくてはならないがそれをどうするか」とかいうことを皆さんに返答しながら、可能性があるのかをまず詰めていただくというイメージも(2)の中に入っているので、漁対協の案の微修正をするというのではなく、もう少し徹底的に話し合います。

ただし、できない漁港を一生懸命詰めてもしょうがないので、専門家に入ってもらい「これはちょっと無理ですよ」というアドバイスをもらったり「じゃあこれはどうか、あれはどうか」というようなことをしたいです。その材料として私どもの研究室の学生が事務局と相談しながら色々と準備しますので、それを使って皆さんが議論できれば良いのではないかな、とそんな考え方で今日は来たのです。それで例えば、こんな風になったというのが出てくると、それにどのくらいお金がかかるかという話が次に出てくるかもしれません。それを詰めて行政に持ち帰って計算してもらい、いくらくらいかかるか、というのを出してもらえれば良いです。しかもお金がかかるとしても、先ほどお話があったように、今後、企画提案型で色々な出資者が出てくる可能性があり、その人たちに仮に依頼するとなれば、ここで議論したことは一つの設計条件として、要望をつけることができます。机上の空論という話もありますが、今みたいな位置づけにすれば、決して無駄ではないと私は思います。

参加者：でも、漁港を造るまで何年もある中で、秋にはまた台風が来るかもしれなくて、漁師さんたちが今困っている状況です。その対策は別かと思います。

Ｆ　Ｔ：応急的な話はそうですね。そのアイデアは(1)の検討結果から引き出せるかもしれません。

参加者：どなたかもおっしゃっていましたが、費用対効果や代替案は具体的なニーズや目的のために、何をどうすると良いのかという話だと思います。その課題なり目的が皆さんあっているようで、ずれているところもあって、そこをちゃんとまず事実として資料を出していただくのが良いと思います。例えば台風被害であれば、これくらいの被害があるとか、漁業者の方にこういうニーズが具体的にあるとそれに対してこういう選択肢が今のところ考えらえるんだという資料が一枚で良いのでしっかりあって、そのためにどれを検討するのか、という話だと思います。

先ほどの民間企業を入れるというのは良い発想だとは思いますが、民間企業の目的は営利であり、投資に対してプロフィットを得るということを目的にやるので、この場の課題意識や目的とは必ずしも合致しない部分があるはずなんですよね。そういうことをちょっと切り分けてやっていかないといけないんじゃないかと思います。

参加者：今の意見で具体的という方向性のトーンですが、それだと何も話が進まないと思います。今、先生がこういう方法でやりましょうかという話をしていただいたところで、目的が何かという話になってしまうと「じゃあその目的ではないからこれは建てられない」とか「この目的じゃないからこういう形のものは造れない」などという方向性になってしまうと思います。ですからここは原点に戻って自由に発想して、あまり制限をつけずに案を出したら良いと思います。例えば「漁港と別にフィッシャーマンズワーフみたいな形で食堂やホテルとかを建てましょう」という案が出てきても良いと思います。そこの部分を民間に任せる、港の部分は純粋に行政がやる、とかっていう様な区分けをピシッとするとか、そういうところは具体的で方向性としては良いと思います。皆さんせっかく色々なご意見をお持ちなので、あまり形式ばった方向性を決めるということではなく、その意見を出し合いながら、鎌倉にとって良いものを建てるという方向性だけを立てれば良いのではないかと私は思います。

参加者：その方向性もいくつかを同時並行にある程度進めていかないといけないと思います。お金をかけたがいらないとなるかもしれませんが、一個だけで進めていくのは、後で問題が出てきたときに、目をつぶって先へ進もうということになってしまいます。事前にそのようにならないように考えて、みんなで話し合っているのはわかりますが、やはりそれだと進みません。最終的に無駄になりますが、二個は同時に進めないと今までも散々お金を無駄にしてきているので、そこでやっていると、何にも形のないものに、ずっとちまちまお金を使っているだけなので、ある程度

無駄も覚悟して同時並行で進めていかないとダメなんじゃないかと思います。

参加者：私もそう思っており、参加者のおっしゃることも非常に理解しているつもりですが、言いたいことは、何か具体的に絞ってということではなく、課題や目的となったときに、当然漁業者の方の安全や水産業の振興やあるいは観光、地産地消とかいくつか目的はあると思います。それに対して、このアプローチであれば二つの目的に合致するなどの課題を解決するなど、もしかすると、もっと自由な発想から出てきたアプローチが三つ四つの課題を解決するかもしれません。そういうのは良いと思うんですよね。ただ、それを前提として整理して皆で出発しないと、話が噛み合わないんじゃないかなということが言いたいことです。

参加者：ちょっと確認といいますか、これは基本的に前回やったＷＳのまとめがありますよね。そこでは、漁港は現状では無理であるというところが一番だと思っていますが、それを踏まえてこれをやろうということは良いのですよね。それともう一つ確認なんですが、漁港をどんなものを造れば良いかということではなくて、(1)も含めて代替案を考えるということですよね。

Ｆ　Ｔ：それはこれからの話し合いですが、私のイメージとしては「浜を中心に考えたらどんな浜になるんだ」また「漁港を造るとしたらどんなことになってほしくないからどうすれば良いんだ」ということを今のうちから考えるということです。

参加者：それは代替案としていくつか考えてくださるということなので、(1)も含めて考えてくださるということで良いんですよね。

Ｆ　Ｔ：どっちかをやるということではなく、それぞれ「この場合はこう、この場合はこう」というように考えます。例えば、(1)も(2)もいくつかの案が出てくるかもしれません。

参加者：わかりました。(2)だけになっちゃうのかなと思ったので確認です。まず前回を踏まえて今回はスタートですねということと、(1)も含めて代替案を考えてくださるということですね。

Ｆ　Ｔ：考えてくださるのではなく、皆さんで考えるということです。

参加者：でも代案は出してくれるんですよね。

Ｆ　Ｔ：代案は出します。

参加者：それを基に、ということで。

参加者：少し出た代替案に関してですが、掘り込み式の再検討というのを、専門家を交えてということだったのですが、どう進めるのかイメージが見え

ません。私たちが再検討しようとしてもできることはないので。

Ｆ　Ｔ：例えば、彼[漁港漁場漁村技術研究所の職員を指して]は私の友人でかつ漁港の専門家だが、彼に掘り込み式でこの規模で造ったらどうなりますか、ということを投げかけて、彼にラフな絵を書いてもらいます。それを基にして我々が模型を作って皆さんに提示して「掘り込み式にするにはこのぐらいの掘り込みが必要で、そのために道路をこうしてやらなければなりません」とします。それで「じゃあ、この道路の傾斜はどこまで来るんだろうか」とか「例えば、こうはできないのか、こうはできないのか」という話を続けていきたいと思います。

参加者：建設会社とか、将来仕事になると思えばタダで、漁港を造るとしたらこういう規模でこんなくらいでというのを一個ぐらい出させることはできないのですか。

事務局：今、ＦＴからご説明がありましたように、代替案については私の方で、通常港湾の土木をやっていますと、メートルあたり大体いくらという概算工事費の算出というのをやりますが、それで概ね一つの施設を造るのにいくらぐらいかかるのかとか、今言ったような掘り込み式をするのなら、土をどけるのにどのくらいお金がかかるのかというのを概略的につかむことができます。そういうものを提示することにより、例えば A 案だったらいくらぐらい、B 案だったらいくらぐらい、というのは示すことができると思います。先ほどから出ている B/C の話で、効果というのはどちらでも大きく変わらないと思うので、当面は皆さんに建設にどのくらいかかるかというコストの部分を指標にしていただくという感じを受けております。

また、今ご提案のありました一般の建設会社にサービスで素案を書いていただけないかという話がありましたが、おそらく 5 年前、10 年前くらいには積極的にサービスしてくれる会社があったと思いますが、今は皆さまご存知のように総合評価とか一般競争入札のように完全に仕様や工事の内容が公表されて誰でも入札できるという状況になっており、そのような中で、建設会社やコンサルがそこにサービスを投資するというのは中々難しいというのが現状です。ある程度地場のものを知っていて、このぐらいだったら少しサービスするよという部分的なサービスは得られますが、中々皆さんに満足していただけるような、絵まで仕上げていただくというのはちょっと難しいのかなと思います。その意味ではなんとか私の方で概略的な絵のイメージなどを作るので参考にしていただけたらという様に考えています。

参加者：要するに代替案、掘り込み式もあるが、先ほど市から少し意見がありま

したが、これをどう具体的なものにのっていくのかというイメージがないので、それをどうやるのか提示していただきたいです。もっと話をつめて提案していただくのでも良いです。今の段階で私たちにこれをもっと具体化しろというのは無理です。

参加者：パワーポイントの次のページで最初おっしゃっていましたよね。分けてやっていくというのが具体的な方法の提案なんですよね。

Ｆ　Ｔ：そうですね。

参加者：ここに行く前に、次回の提案なのですが、代替案が具体的に 4 つか 6 つ出ています。掘り込み式、腰越、小坪、逗子マリーナ、和賀江嶋、浜小屋、これらそれぞれについて、もう少し今わかっている状況や準備できる範囲で「こういうイメージになります、こういう費用になります」というのを一回ちゃんと整理して出してもらうのが良いんですよね。その時にさっき言った目的がいくつかあるはずなので、漁業者の安全性という目的があるとしたら、掘り込み式漁港の上に施設を造り、観光や地域活性化みたいなものもできるとか、逗子マリーナでやるんだとしたら、そこに朝市みたいなものを作って地産地消を推進できるとか、あると思うんですよ。これの選択肢と課題を解決できること、目的を整理したものを出発点としてやるべきではないかと思います。

Ｆ　Ｔ：腰越などとの共同利用や和賀江嶋の活用ができないのか、については行政からおそらく大変難しいという話が出ると思います。あくまでも提案なのですが、一つの前提は、今後漁業者が安全に漁業活動をできることがまず狙いの一つであり、同時に、鎌倉観光と市民生活の向上に向けてそれがどんな寄与をするのか、ということまで一緒に考えませんか、というのが言いたいことです。参加者がおっしゃったように漁業活動の意味を再検討しましょうと言われてしまうと、身動きが取れなくなってしまうが、参加者の方が漁業活動の安全について考えてよろしいということであれば進めます。

参加者：三つのグループに分けようということなんですか。

Ｆ　Ｔ：そういう可能性がないこともないですが、(1)にしろ(2)にしろ、いずれにしろ観光や市民生活と関わりを持ってくるわけですから、これを被せることを前提にしてやってはどうかということです。つまり、単に機能的な問題の検討だけなら、行政でできるわけですが、皆さんの観光や市民生活の向上というものを被せたときにこれがどう変わるか、ということをやってみたらどうかということです。

参加者：じゃあ、前年度出た具体的な代替案ごとに検討グループを作るのではな

く、三つの方針に従って。

Ｆ　Ｔ：たとえば(1)をやりたい人、(2)をやりたい人に分かれて。

参加者：二つに分かれるのですか。

Ｆ　Ｔ：例えばです。2 チームに分かれて検討し、それをお互いに発表するというイメージでした。

参加者：このことに関心を持つのは当然のことですが、このＷＳのそもそものことからいって、やはり港を造るという大きな前提が漁対協で出て、それについて皆でどう考えるかという議論から、段々と造るだけではないということで、選択肢が出てきています。いずれにしても、私が先生と事務局の話を聞いて思うのは、最初にも申し上げたかと思いますが、議論のための議論であり、変な言い方をするとお遊びやゲーム感覚で「こういうことだったらどうだろう、こうなったら良いね」とか、現実にならないものに本当にお金や時間をかけて良いのかと思います。先程の参加者の方もそれに近いことをおっしゃっていたが、いずれにしても、そこを逆に言えば市が「いや、これは造るんですよ。大体 20 億円なら、市は 5 億円で県と国から 10 億円もらえるんだから、やはり推進して他の県で港造るよりも鎌倉に引き込んだ方が良い。できますよ。」とその後「維持費について、毎年 1 億円ぐらいだったら付けられます。だから具体的にもっと積極的に進めましょう。さあ、どういう方法が良いかな。」というのであればわかりますが、その辺が全くわかりません。あるいはお金がつかない、つきっこないだろう、というような前提で「あなた同調しますね」と言われても困ります。果たしてそれに意味があるのかどうか、というのが一番前提の問題です。それに税金の使い道として、こうやってお金かけるということについても、もっともっと福祉で足らなくなっている時代に、実現もしないようなものだけに時間とお金をかけるというんだったら、鎌倉市の考え方はおかしいんじゃないかと私は思います。

参加者：すみません。だからそういった市の考え方がおかしいとか、お金はつかないかもしれないからこんな議論をしてもしょうがないというのもあるとは思いますが、ここは前提として、実現するかわかんないが、とりあえずこういったモデルっていうのを作ろうっていうところなんですよね。

Ｆ　Ｔ：そういうつもりです。

参加者：そうですよね。それだったら、議会で予算がつかない限りはやってもしょうがない、という話になってしまいます。だからそれを言い出すと、それはお金がついてから、じゃあまたここでやりましょうという話ですよね。

参加者：それでも良いと思います。

参加者：それでも良い人は予算がついてから集まれば良いし、じゃあこのＷＳは予算がつかなくても理想のモデルを作る会ですよとする。それに賛同する人だけが来れば良いじゃないですか。

参加者：そういうことにするのだったらそういう依頼になるのだが、今までの流れの中ではそうではありません。

参加者：今後どうするかということじゃないですか。だから市役所や先生にバシッとこうです、と一任して決めちゃえば良いじゃないですか。

参加者：賛同する人はついてきてくださいとするのですか。

参加者：だって、いつまでたっても意味ないですよ。

参加者：たった今お話があったように、予算がつきました、集まってくださいと言ってもこんな論議でいつ予算が執行されるのかわかりません。逆に今年度で執行しなくてはならないとなった時に、そこから検討に入ったのでは何もなりません。逆に行政の良いように漁港を造られちゃうという話になります。できるのか、できないのかという話ではなくて、今こうやって話をして、我々の意見としてはこういうものがほしいね、というのを提示しておかないと、いざ何かあったときにやはり遅いということになってしまいます。ですから、その前段階としてこの話をしているのであって、予算がないから今できない、国にもお金がないなど、でもお金はどっかにいってるんですよ。そのお金をもってこられれば、ベストな状態です。子供がお小遣いを親にねだるとき、プラモデルを買いたいからお小遣いを頂戴っていうのと、ただお小遣いを頂戴というのでは、やはり親の対応は違うと思います。それと同じだと思います。やはり今の段階で市民の意見を提示しておかないといけないと思います。ですから、このＷＳで議論して良い方向に持っていきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

事務局：参加者の意見に関してですが、市も何もプランがなくて予算をつけることはできません。ある程度市で考えた机上のプランで予算要求をしたとしても、どうやって決めたんですかということになります。例えば、こういったＷＳや協議会などで十分意見を聞いて、こういった方向で参加者は考えている、市としてもこのようにやりたい、ということであれば、予算要求をするにしても全く違う話です。こういう集まりが全くなく、ただ思いつきの様に市で予算を要求したとしても、まず通らないと思います。そういう点で市としては、漁港についての事業を立ち上げていますので、このＷＳや今までの協議会の成果を踏まえて、財政課に説明す

る材料として貴重な意見とします。議会としても、2 年前の予算については修正予算ということで出していただいていますし、その後のＷＳの方向というのは非常に注目されているところだと思います。だから、ある程度の方向が出れば、当然議会にも報告しますし、予算要求の際には、ＷＳでこういう検討結果が出て、こういう意見をいただいていますとなります。市としてもそれに向かってやっていきたいと予算要求できると思いますので、やはりこういった過程の中では、こういった話し合いというのは大変重要なことだと私は思っています。

参加者：報告書の中でも費用対効果の分析の実施についてありますよね。色々な意見の中に、必ず算定できるはずであるとあります。なので今回、漁港の整備を考えるのであれば、費用対効果の分析についてどっかで実施したいわけですよね。

Ｆ　Ｔ：コストは計算できますが、効果が難しいのです。

参加者：ちょっと話がまたずれて恐縮なんですけど、なぜこのＷＳを作ったかという話になりますが、目的に対する一つの案としての漁港建設は、3 月の段階で、ほぼ具体性に乏しいだろうという話がありつつ、ただ、当事者の方たちは喫緊の課題があるとなりました。それをほっとくわけにはいかないんじゃないですかという議論だったと思うんです。今おっしゃったように、ある一定の前提があって、漁対協案でも、机上の空論でも、理想論でも、それを前提でやるんだという前提をはっきりさせてやることは、それはそれでわかりましたということなのですが、じゃあ、その間に喫緊の課題はほっといて良いんですか。ほっといて良いのであれば、やってもしょうがないです。一から作りかえた方が良いのではないかと思います。現に今壊れた台風被害など、今の状況が絵になるまで 5 年や 10 年かかるかもしれません。その間ほっといて良いんだったら、無理して継続する必要なかったんじゃないかと思います。

Ｆ　Ｔ：現在は、起こった災害に対してどのように対策しているのですか。

事務局：今回の台風 4 号の時には浜小屋の被害はほとんどありませんでしたが、浜崖ができて船の出し入れができなくなりました。それには県の緊急養浜対策で対応していただき、砂を入れてもらいました。この間一週間程度、出漁ができない状況です。2 年前はもっとひどく、浜小屋のほとんどがつぶれたり、屋根が壊れたりや浜小屋の床に砂が何十センチも溜まって、その復旧に大変な時間とお金がかかりました。それから漁船も被害を受け、その時はかなりの被害金額になったと思います。それに対しては、我々は特段手当ができず、漁業者の皆さんが自らかけている保険や

自分たちで浜小屋を復旧されたりということがあります。大きい台風は 3 年に一度程度あります。以前はそれほどなかったと思いますがここ 10 年ほど今まで以上に被害の発生頻度が高く、被害額も大きくなる傾向にあります。

参加者：喫緊の課題があるから、それに対する対策としてどうするかという話があり、その案として漁港という案がありました。それが難しいなら、じゃあどうすれば良いんですかというのが私の理解なんです。だとすると、喫緊の課題は 5 年かかるか 10 年かかるか知りませんが、とりあえずほっといて、問題があっても何らかの形でしのげるのであれば、何でそもそも漁港を造る必要があるんですか、という話になってしまいます。暴言で恐縮ですが、ほっといても何とかしのげるのであれば、そもそも何で漁港が必要なんですか。

事務局：先生が言われた(1)の浜を使ってやるとすればという議論でできると思います。例えば、10 年、20 年先になってしまうかもしれないということで、こんな話を今してどうするんだということもあるかもしれませんが、これだけの人が集まって話をしているので、すぐに着工できないということであったとしても、ここに漁港を造るのに何が課題で、どの様に克服すれば造れるのかという議論をする下地を、去年も話し合った中で、できているのではないかと思います。例えば、我々がこれから漁港を造っていく時に、どういったものであれば、近くに住んいでる方や海を使っている方などが、納得していただけるのかをやはり知りたいです。

参加者：それであれば理解できます。(1)というのはむしろ、現実的な目先の課題の対策を考えるチームであり、(2)が言葉は悪いですが、空論というか理想論追求チームということなんでしょうか。

Ｆ　Ｔ：そういう位置づけはそのグループが段々と決めていくことだと思います。現実の問題をとにかく克服すれば良いという位置づけで(1)を進めるのか、それともより長い期間で浜の問題を考えましょうというのを(1)のチームが課題化するかはまだわかりません。

参加者：それならわかりました。

参加者：(1)の方はどんどん具体的につめてもらって浜小屋とかに活かしてもらいたいと思います。先ほどの費用対効果の話ですが、市から費用とか良いから、まず案を作ってそれから費用を出して、それで予算がとれたらラッキーのような話がありました。そういう風に聞こえます。まず費用は良いから案を出しましょう、という様に聞こえたんですが、それが今の行政のすごい問題なんじゃないんですか。民間で言えばビジネスプラ

ンであり、効果が難しいと言いますが、それを一生懸命算出していかないと予算の有効活用なんてできないじゃないですか。ですから、掘り込み案の再検討をするのは良いのですが、費用ももちろん出し、効果もできる限りきちっと検討するべきだと思います。

Ｆ　Ｔ：案が出ればその概算のコストは計算できるのでそれは出します。決していくらかかっても良いということではありません。

参加者：それだけの意味があるかをきちっと議論しましょう。

事務局：今ＦＴが言ってくれた通りで、私の言い方が悪かったかもしれませんが、お金で縛ってあまり意見が出てこないというのは、良くないと思います。意見を出していただいて、ここまでやるとこれだけかかります、というのを出していくというお話をしたつもりでした。

参加者：家計でも企業でもお金を使うとなれば、どれだけかかるか全部イメージしながらやるのが当り前でしょう。

参加者：お金がかかる、だから、お金がないからできないでしょう、というのが、昨年度の現実的ではないというものの根拠ですよね。それはそうだと思います。これからの日本を考えていくときに、そんなに土木工事に色々なお金をかけられる状況ではないと思います。でも、お金だけでこういうプロジェクトの是非を判断して良いのかと思います。私が言いたいのは、では漁港をお金があったら造って良いのかということはどうして考えないかなと思います。

夢物語かもしれないが、どっかの企業や鎌倉市で、由比ヶ浜を整備しなくてはならないから予算をつけようとなった時にお金がないから検討しなかったということだと、じゃあお金がついたからそれは造らなければならなくては、いけないと思います。その時に、今まで市民の声をくみ上げておかないと、漁港ができてしまうと思います。私が気にしているのは、先ほど参加者の方がスペックとおっしゃいましたが、ここで市民がスペックをちゃんと作っておかないと、行政主導あるいは企業主導の漁港を造られてしまうんじゃないかと思います。お金だけが歯止めになっているから、我々としてはお金のことは今回は別にして、こういう漁港は造ってほしくないという意見をちゃんと出しておかなければいけないと思います。そのためには、具体的に今ある代替案を検討する、あるいは我々が理想とする浜の使い方を検討する、あるいは別のところに移した方が良いんじゃないか、あるいは環境的にはどうか、観光的にはどうか、景観的にはどうかという様に、こういうのは許せるけどこういうのは絶対に鎌倉にふさわしくないという意見をちゃんと積み上げていかなければ、お金だけが歯止めというのは後ですごく痛い目を見る

んじゃないのかな、というのが私がこのＷＳに参加している本当の意図です。

参加者：一つだけ確認したいのは、ＦＴが先程、代替案で出されたものは多分全部無理だと市から説明があるはずですとおっしゃいましたが、これから議論していくときに、去年出した代替案が無理という前提でゼロベースからもう一回考え出すのか、それともある程度これを踏まえた上で、それが本当に無理なのかというのを詰めていくのか。先ほどの話だと、もしかすると掘り込み式などができるかもしれないじゃないですか。あるいは先ほどのＰＦＩの話などをすれば、資金的にもできるものがあるかもしれないですよね。あるいは浜小屋のように喫緊のものについてはすぐに予算を付ければできるものもあるかもしれません。そういう出発点というのが私は建設的だと思っていて、またゼロベースでスクラッチで、自由に考えましょう、とやるのは少し建設的じゃないという気もしています。そこはどちらなんですか。

Ｆ　Ｔ：まず、今の状況ですと、次回の見学会はとてもできないので、ＷＳにしなくてはならないと思いますがそれは可能ですか。

事務局：可能です。

Ｆ　Ｔ：それで、今のお話にありました、前提条件をちゃんと整理して、何を検討するのかをちゃんと明文化してほしい。それまでに、市として宿題としてやらなければいけないことと、我々が作業として取り組むべきことをちゃんと整理します。同時に昨年来の代替案がいくつかありましたが、その代替案については、こういう事情で妥当ではないという見解を市がお持ちであれば、それをご披露頂いて説明をしてもらいます。例えば、和賀江嶋がなぜいけないのかなどです。その上でよろしければ、概ねこのような方法で作業を開始したいと思います。(1)と(2)に分かれてやるべきなのかも含めて次回に検討したいと思います。同時にどういう作業をするのか、作業イメージがわかないという意見もございましたので、作業イメージが湧くような準備をこれからします。例えば、こんな風に検討したらどうでしょうかということをお示しいたします。こうやっていく中で、例えばどちらの問題に関心をお持ちかによってその次に見学会をやり、その見学会で関心に応じて色々質疑応答をしたり現場で意見交換をしたりするということをやって、段々と作業に入っていきたいと思っています。よろしいでしょうか。（同意）

　ありがとうございました。そのように作業に入りますので、ぜひともご参画くださいますように。

参加者：資料は事前に送ってくれるんですよね。

Ｆ　Ｔ：内容についてですか。どういう検討をするかについてですか。作業イメージについてはここでご紹介します。

参加者：メールで意見を言えるのか。メールアドレスがあるのか。

事務局：私どものところの通知にあると思います。また市の産業振興課のＨＰを見ればわかります。

参加者：作業イメージもできるだけ事前に知らせていただくと、意見をもって参加できると思います。

Ｆ　Ｔ：できるだけやります。それではどうもありがとうございました。

終わりに

事務局から次回の日程調整、閉会挨拶を行いました。